

最優秀賞

## 「ぼくとお父さんのおべんとうばこ」

広島県広島市立中島小学校一年

片山 悠貴徳

おとうさんがびょうきでなくなつてから三年、ぼくは小学二年生になりました。

おとうさんにほうこくがあります。きつとみてくれているとおもうけど、ぼくはおとうさんのおべんとうばこをかりました。

ぼくは、きのうのことをおもいだすたびにむねがドキドキします。

ぼくのおべんとうばこはしがあつて、すてきなおとがきこえました。きのうのおべんとうばこは、とくべつでした。まだ十じだというのに、おべんとうのことばかりかんがえてしまいました。

なぜきのうのおべんとうがとくべつかというかと、それはおとうさんのおべんとうばこをはじめてつかったからです。おとうさんがいなくなつて、ぼくはとてもさみしくて、かなしかったです。

おとうさんのおしごとは、てんぷらやさんでした。おとうさんのあげたてんぷらはせかい一おいしかったです。ぼくがたべにいくと、いつもこつそり、ぼくだけにぼくの大すきなエビのてんぷらをたくさんあげてくれました。そんなとき、ぼくはなんだかぼくだけがとくべつなきがして、とてもうれしかったです。あれからたくさんたべて、空手もがんばっ

ているので、いままでつかっていたおべんとうばこではたりなくなってきました。

「大きいおべんとうにしてほしい。」とほくがいうと、おかあさんがとだなのおくから、おとうさんがいつもしごとのおきにもっていつていたおべんとうばこを出してきてくれました。

「ちよつとゆうくんには大きすぎるけど、たべられるかな。」といいました。

でも、ほくはおとうさんのおべんとうばこをつかわせてもらうことになったのです。

そして、あさからまちにまったおべんとうのじかん。ほくはぜんぶたべることができました。たべたらなんだかおとうさんみたいになつて、つよくてやさしい人になれたきがして、おとうさんにあいたくなりました。いまおもいだしてもドキドキするくらいうれしくて、おいしいとくべつなおべんとうでした。

もし、かみさまにおねがいができるなら、もういちどおとうさんと、おかあさんとほくともうととみんなでくらしたいです。でもおとうさんは、いつも空の上からほくたちをみまもつてくれています。

おとうさんがいなくて、さみしいけれど、ほくがかぞくの中で一人の男の子だから、おとうさんのかわりに、おかあさんともうとをまもつていきます。おとうさんのおべんとうばこでしっかりごはんをたべて、もつともつとつよくて、やさしい男の子になります。

おとうさん、おべんとうばこをかしてくれて、ありがとうございます。